



おもいやりは、想像。

動物の気持ちを想像する。
その痛みも苦しみも、そして喜びも
私ならどう感じるだろうと……。
自分のこととして考え、想像する。
言葉を持たない動物たちと向き合うことで、
大切なことを学びました。

—— Eva 代表理事 杉本彩



おもいやりは、
想像。



おもいやりは、想像。

動物は私たち人間と同じように、痛みやかゆみ、そしてもちろん暑さ寒さや嫌な臭い、空腹感やのどの渴きを感じます。また、動物特有の習性による行動欲求もあります。さらには、喜びや悲しみというシンプルな感情だけでなく、共感や嫉妬など、複雑で豊かな感情も持ち合わせています。

ですが、人は往々にして動物が置かれている環境や、そこに置かれている目の前の動物のストレスを気にかけず見過ごします。なぜそうしてしまうのか？やはり飼ってあげている、世話をしてあげているという心理が根底にあり、動物の立場で考えることをせず、その”してあげている”見返りに「吠えるな」「いい子でいろ」「黙って食え」「手間や金をかけさせるな」といった動物に対し見下す思いがあるのではないかでしょうか。それゆえに

- 暑さ寒さから逃れられない場所で体が臭くなっても放置の外飼い
- 室内でもケージに入れっぱなし
- 給餌給水を忘れたり
- 体調が悪そうだけど、まあ大丈夫だろうと病院にも連れていかず…

このようなことが日常化したり、最悪の場合、死なせてしまうこともあるのです。

では一緒に暮らすペットの気持ちはどうでしょうか。ペットは飼い主のことを信じ、飼い主の行動パターンを常に見ていて、何よりも飼い主と同じ空間や優しいまなざしの先に常にいたい、そう思っているのです。

人が誰かを思いやる気持ちと同じように、動物の立場になって考えることができれば、それは必ず「動物の幸せ」につながります。その思いがあれば目の前の命が愛おしく、また大切に思えるしその子が天寿を全うするまで唯一無二の存在としてその命を大切にするでしょう。

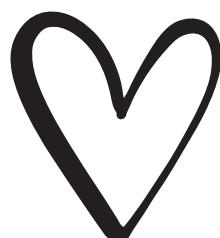
また「動物の立場になって考える」その思いがあれば、ペットに限らず、野生種を使ったふれあい動物園や、動物園動物の気持ちも想像できます。そういう動物も恐れや悲しみ、退屈や興奮といった何かしらの影響を必ず受けています。感受性豊かな動物の身体的・精神的ニーズを想像し実現すること、それが動物の体と心が満たされることにつながるのです。

「おもいやりは、想像。」



杉本 彩

公益財団法人・動物環境福祉協会 Eva 理事長、女優。
動物にも感情と心があります。私たちと同じように、
喜びや悲しみや寂しさを感じます。社会の中で、一番
弱い立場の動物の命を尊び、その気持ちを思いやる
ことのできる社会は、人にも優しい社会です。人と動物
が共に幸せに生きることが出来る、心豊かで平和な
社会の実現を全力で目指します。



おもいやりは、
想像。